

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270201070		
法人名	有限会社 福老の家		
事業所名	グループホームあんしん苑		
所在地	千葉県千葉市花見川区横戸町893-1		
自己評価作成日	平成28年11月3日	評価結果市町村受理日	平成28年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成28年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は毎日、お一人ずつの表情を見て、お話をし、時にはつきっきりでじっくりと時間を共にしています。その毎日の中で、認知症から「したいこと」「伝えたいこと」を外に表現することが難しい方のご希望をくみ取り、どうにかして実現できないか、と試行錯誤します。「お風呂は嫌い。広いお風呂なら入りたい」→スーパー銭湯へ。「ベッドから起き上がることはできないけど、不二家のケーキが食べたい(しかも店内で)」→ストレッチャーとリクライニングを駆使して。「お金はあまりないけど、食事よりタバコが吸いたい。」→どうにかしてタバコ代が捻出できないか、と生活費全体を細かく再計算。まるで事業仕分け。これらがあんしん苑の職員の日常です。「無理でしょう。(身体的に・認知症の程度で・金銭的に・環境的に)」ではなく、いつも「どうにかならぬかな…」と考えています。ちょっと型通りでないことも多くあると思いますが、職員が愛情と時間をかけて考え出したステキな事例がたくさんあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの前は静かな住宅地、裏庭を隔てて自然豊かな横戸市民の森、周囲は小学校、公民館などの恵まれた環境で、平屋建て2ユニットの事業所は落ち着いた穏やかな雰囲気の中にある。利用者には早朝起床、コーヒーを飲み、風呂に入るのを楽しみにする方もいれば、早目に就寝、そして深夜に目覚め、職員とおしゃべりを楽しんむ方もいる。お酒をたしなむ方もいる。ホームの基本は利用者ごとの生活リズムと一人ひとりのやりたいことを尊重し、「無理ではなく、どうにかなる」意識での支援である。このような支援が可能なのも、未経験の職員を受け入れ、長い目で育て上げ、全職員の理解と協力で支援するというホームの職場風土が醸成されているからであろう。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「選択」「決定」「行動」ができるように日々の介護やケアプラン作成時に時間をかけてご希望の汲み取りを行っている。	3つの運営方針、介護基本法基本方針を事務所内に掲示し、申し送りやケアプラン作成時などにはどんな小さなことでも、出来ている・出来ていないを確認している。日頃の実践を通じて理念の具体化に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご近所での散歩時など、挨拶を心掛けています。また、来苑されるボランティアの方も地域の方で、少しずつ人数も増えています。	祭りなどの町内会イベントへの参加、自治会ボランティアなどの来訪が多い。課外授業で来苑した小学生たちが、その後土日に遊びに来て交流が続いている。車の少ない住宅地は格好の散歩道で、近所の家からミカンを頂き、近隣住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族からの紹介や、ボランティアの方からの相談が時折ある。他地域であることも多いが、誠意をもって対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、活発に意見交換できている。季刊誌の発行など、ご助言いただいている。	年初に年間6回の開催日を決めて、安心ケアセンター、ご家族代表、ボランティア代表などの参加を得ている。有給休暇取って参加する家族もいる。何でも話せるお茶飲み会的雰囲気運営し、いろいろとアドバイスを頂く。ボランティアの方から利用希望者を紹介され、入居された方もいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法令のことばかりではなく、ご家族にまつわる相談などもしている。	管理者はグループホーム連絡会の世話人でもあり、連絡会開催時の市との交流や、安心ケアセンターとの話し合いなどがある。千葉市高齢者福祉課は時々訪問して、何でも相談できる関係づくりが出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	前回の外部評価以降も引き続き身体拘束はない。	県の研修を受講した職員が、ホーム会議で伝達講習をする。過去に投薬の影響で、行動が激しい方の事例があったが、医者と相談して落ち着いた。現在該当する利用者はいないが、事故報告、ヒヤリハットはしっかり報告するように職員へ徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と併せて定期的に事業所内研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が成年後見制度を取り扱うNPO法人に参加し、あんしん苑に入居される方にも制度をお勧めしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはできる限り複数名のご家族に同席していただき、合意の署名をいただく。用語などはできる限り砕いて説明できるよう、契約書類を改良している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはお茶をお持ちして、ご家族が話しかけられるきっかけにしている。	「職員が忙しそうだから話せなかった」と言われないよう行動すること、但し「職員個人の判断で回答しないこと」等を職員が理解して、意見を聞くようにしている。家族の来訪はばらつきがあるが、意見は業務ノートに必ず記入して、共有している。	外出支援に関する利用者家族アンケートでは、よく出かけているが2名と少ない。特に不満があるとの指摘ではないが、自己評価との比較、家族の希望する支援内容についての確認も必要と思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談の際、または日常的に事務室を訪れた際などに意見を交換している。	3ヶ月に1回、介護主任が正規・パート職員全員と個人面接を行う仕組みがある。職員によっては1日中話し合うこともある。徹底した話し合いの下に、運営方法や、職員の要望事項等を確認して、信頼関係を作り上げ、ホーム運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談には多く時間を取り、仕事の振り返り、目標設定、労働環境のことまで意見の吸い上げをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2か月に一度の苑内研修を設け、内容によっては個人授業の形式をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと交流ができるよう、グループホーム連絡会に加入し、研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には特にご家族の協力をお願いし（電話対応など）、多くの情報をいただくようにしている。それにより、リロケーションダメージを最小限に抑えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に現在の生活の場を訪問し、実生活で何が困難になっているのか確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅介護中の方が多く相談に来られるため、あんしんケアセンターに繋げるなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お願いします」「助かります」という声掛けを多用し、その人の力が必要であることを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居希望をうかがった時点で、施設に入れたという気持ちにならないでいただきたいとお話しし、あんしん苑は協力者であることというスタンスを理解していただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お連れできる距離の希望にはこちらで添うようにし、(行きつけの店など)遠方のご希望(お墓など)あった時にはご家族にお伝えしている。	毎週末自宅に戻られる方や本人から実家に行きたい等の話が有る場合は、家族と相談し出来るだけ希望に添える支援を行なっている。施設内の電話は何時でも利用でき関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時の席、外出イベントの組み合わせなど、相性の良し悪しは必ず考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方や、お看取りさせていただいた方の葬儀参列するなどし、以降もご家族とのかかわりが続いているケースがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、ご家族からその方の生活に対する考え方や価値観のお話を伺い、ご家族の許容範囲もどうかいながら実現できるよう努力している。	自分で選択し決定し行動することを理念に掲げ、買い物に行くか行かないか、入浴するかしらないか、利用者の意志を確認し思いを共有し支援に臨んでいる。家族の来訪時には本人を交えて希望や意向を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用していたサービスがあれば事前に情報提供を受け、生活の全体像の把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	直接的な会話や介護だけではなく、遠目からの観察や生活の様子で、その方が今持っている力の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者にケース担当を付け、常に変わるとご本人の状態を把握できるようにしている。アセスメント時には特別に時間を設けて聞き取りやコミュニケーションを密にしている。	ケース担当者は、状態の変化や経過観察を行い常に状態を把握している。介護計画に添ってモニタリングも定期的に行っている。日々の心身状態の気付きは職員の連絡ノートに記載され情報は共有されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録をはじめとし、食事、排せつ、生活援助内容を記録し、滞りのないようにしている。また、職員間の連絡ノートを活用して気づきなど情報交換して。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な受診への協力(送迎など)や、ご家族の事情を考慮して協力の量を増減している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力機関ではないものの、近隣の医院には認知症を理解して受け入れていただいている。待合室では近隣住民の方とコミュニケーションも取れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	引き続き関係は良好。月一回受診することで、普段の様子も把握していただいている。	家族の同行受診の他、内科以外の訪問診療も利用でき、夜間、祭日の緊急時の対応も可能で利用者、家族の安心に繋がっている。毎週の訪問の他、訪問リハビリも導入され希望者は利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	長く固定の看護師の訪問を受けているので、各入居者との人間関係が構築されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	一日も早い退院を入院時に希望している。地域連携室には受診時に立ち寄るなどして関係を続けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に関する考え方を伺い、書面をいただく。また、機会があるごとに終末期の話避けないように、現在の本人、家族の考えを把握しているように努めている。	入居時に終末期についての希望を聞き、ホームとしての方針も伝え、必要な時期に本人、家族との話し合いを重ねている。終末期をホームで迎えることを選択する方も多く、医療機関、関係者との連携を図りチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	冷静な判断と対応ができるよう、個人が必要以上に責任を感じたり自分を責めることのないように、常時管理職と連絡が取れるようになっていて、指示を受けながら対応ができる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回の消防訓練には、地域の方が参加してくださることもあり、コメントをいただく。	年2回の消防署への通報訓練の他、毎月出火元の想定を替え利用者、職員と一緒に避難訓練も行っている。近隣住民の方も参加されることも有り、近隣の避難場所としても提供している。災害時の水や食料の備蓄も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは常にお互いを注意しあい、管理者からも多く指導する項目。	管理者は利用者に対しての職員の言葉使いの指導を行い、運営推進会議では職員の対応について家族の協力もお願いしている。プライバシーを損なわず、本人の意思を尊重した対応を徹底させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでもご本人が「選択」し、「決定」し、「行動」に移せるように支援することを目指している。	管理者は利用者に対しての職員の言葉使いの指導を行い、運営推進会議では職員の対応について家族の協力もお願いしている。プライバシーを損ねず、本人の意思を尊重した支援を徹底させている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症から、その日、その時の希望が長く保持できないことも多いので、スピード感を持って、をその場で実現できる余裕が持てるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新しいものを買って入居するのではなく、できるだけご本人の好みで買った衣類を持ち込んでいただくようお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には、ご自分の分の下膳をしていただき、食事準備にはできる内容をお願いするなどして毎食支度している。	利用者の希望に合わせた食事時間で配膳し、食後の食器洗いの出来る方は自分で洗い、戸棚に片付けを行っている。ホームの菜園で収穫した野菜を使った季節の食事と毎週の手作りおやつは皆の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌に毎食の記録を残し、24時間の水分量の記録も残している。水分量の不足は翌日補えるよう、申し送り事項に加えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	長くかかっている訪問歯科医による口腔ケア指導を受ける準備をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄表をつけ、リズムの把握をしている。季節や体調で必要でなくなる排泄用品もあり、本当に必要なかを振り返りながら使用の是非を見直す。	排泄表をつけ、本人のパターンを把握し声掛け、誘導しトイレでの排泄が出来るよう支援している。季節や体調に合わせて不快が無いよう工夫し、夜間もなるべくトイレ誘導を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬剤に頼らないように自然排便を目指している。(水分量の把握、食物繊維摂取、散歩など)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介助の必要な方も21:00まで毎日入浴できることを当たり前としている。冬に向かうので「夜、温まって寝たい」希望が増える。	朝風呂、夕方、寝しなにと利用者の希望の時間に入浴できるよう毎日準備している。お風呂嫌いな方にはスーパー銭湯に同行したり、「明日は訪問リハビリで先生が来ますから綺麗にしましょう」等と声掛けし入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を設けず、各個人の睡眠リズムを尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬情をファイルにまとめて、処方箋のたびに差し替えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほぼ全員の入居者の方に自然と役割があり、楽しみ事などの希望はその場で叶えられるよう対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠方の外出希望があった際にはご家族にお伝えし、こちらもできることは協力することを伝えている。	ホームの広い庭や畑を散歩する方、おやつや食材の買い物に職員と一緒にいく方、車椅子で住宅地を散歩される方等、外出する事で毎日の生活にメリハリを付けている。遠方への外出希望には家族と相談し協力して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方(多少間違えてしまう方)には上限を決めて所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使えるようになっており、また手紙を書いてポストに出しに行くことが習慣になっている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族のご厚意で、エントランスに花を活けて頂いている。季節の生花が入居者の方、来客に好評。明かりはできるだけ柔らかいものを使うようにしている。	広々としたリビングは日当たりも良く、毎日の朝食後には皆で新聞をちぎり水に濡らして床にまき、拭き掃除を行っている。家族の協力を得て、エントランスに花を活け、花壇や庭に花を植え季節を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の突き当たりや、日の当たるエントランスなどに手製のベンチを配置し、入居者同士、入居者と職員のおしゃべりの場になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「引っ越しとと思って来てください」と入居時にお話しし、ご本人のなじみの物を持ち込んでいただくようお願いしている。	大切な仏壇や使い慣れた家具が持ち込まれ、居室内は転倒の危険が無いよう片付けられている。クローゼットの中には季節の物も収納でき、室内の手摺りは本人に合わせて設置でき、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の壁には手すりを自由につけられる下地を入れてあるので、その方に合った手すりを設置できるようになっている。また、居室入口には入居時に準備していただく個性のある表札がかかっている。		